

和歌山県における平成 27 年度の  
女性医師の現状に関する調査報告書

平成 27 年 7 月

和歌山県医師会      和歌山県病院協会

はじめに

わが国で女性医師の数が増加しているのは周知のことと思われます。1990年代後半から医学生  
の女性比率は3割を超えるようになり、医師全体に占める女性の割合も増加し続けています。

厚生労働省の発表では平成27年1月現在40歳未満の小児科医の43.8%、産婦人科医の60.6%  
が女性であり、潜在女性医師は全国で4500人（H16）となっております。

当県の和歌山県立医科大学においても同様の状況がみられ、医学部学生の約3人に1人以上は女子  
学生となっております。また県内の20歳代、30歳代の医師も同様の状態となっております。

女性医師は出産や育児などで医療現場から離れざるを得ないケースもあります。

診療科・分野にかかわらず女性医師が働きやすい環境を整えていくことが求められており、そのラ  
イフステージに応じた離職防止・復職支援を推進していくことが重要な課題となっております。しか  
し県内の女性医師の偏在の状況や離職実態や復職希望の現状に関し、その詳細な状況までは把握し  
きれいていないようです。

平成23年7月には和歌山県医師会が実施主体となり、県内全女性医師に対する勤務環境の調査  
が行われ、種々の問題点が浮きぼりとなりました。それから4年を経た平成27年3月に和歌山県  
医師会及び和歌山県病院協会の協働により、すべての県内女性医師を対象に再度現状の調査を実施  
致しました。その間の変遷も含め、現在の問題点及び今後の必要とされる点などについて推考し、  
それらの点についての集計を含め報告致します。

和歌山県医師会  
和歌山県病院協会  
平成27年7月

## 調査の目的

和歌山県で働く女性医師の勤務及び生活の実態を把握することである。そして女性医師が出産・子育て等とのワークライフバランスを実現しながら、働きやすい環境づくりを推進し、ひいては自身のキャリアデザインやキャリアアップの為、実効性のある支援策の基礎資料となることを目的として実施した。

## 調査概要

- |            |   |
|------------|---|
| (1) 調査実施機関 | 和歌山県医師会・和歌山県病院協会  |
| (2) 調査地域   | 和歌山県全域  |
| (3) 調査対象   | 和歌山県内の女性医師<br>・和歌山県医師会所属の女性医師会員（A・B会員）<br>・和歌山県病院協会で把握できる全女性勤務医師                                |
| (4) 調査方法   | 県内女性医師を対象に調査票を郵送もしくは県病院協会の協力のもと、直接手渡しにて配布し無記名で回答してもらい、郵送による回収を実施した。                             |
| (5) 調査基準日  | 平成27年2月23日  |
| (6) 調査期間   | 平成27年2月23日～3月31日  |
| (7) 配布数    | 平成27年2月23日現在、和歌山県医師会及び県病院協会に把握できる女性医師651名（医師会員並びに病院勤務医）に配布し、290名（約45%）から回収を得られた。有効回答数は290名であった。 |

## 結果の総括

### 【女性医師の勤務地・居住地の分布】

今回の調査に回答して頂いた女性医師 290 名の勤務地域の内訳は、和歌山医療圏 213 名 (73.4%) と突出して多く次いで田辺医療圏 21 名 (7.2%) 那賀医療圏 18 名 (6.2%) 橋本医療圏 16 名 (5.5%) 御坊医療圏 12 名 (4.1%) 新宮医療圏 7 名 (2.4%) 有田医療圏 3 名 (1.0%) であった。主たる居住地に関しても和歌山医療圏 223 名 (76.9%) とやはり多く、次いで田辺医療圏 21 名 (7.2%) 那賀医療圏 13 名 (4.5%) 橋本医療圏 9 名 (3.1%) 御坊医療圏 9 名 (3.1%) 新宮医療圏 5 名 (1.7%) であった。いずれも和歌山医療圏にとりわけ多く、勤務地に比し居住地は和歌山医療圏のみさらに多く、その他の地域においては同等もしくは少ない傾向であった。一般の人口分布と比較しても県庁所在地であり、かつ基幹病院が多く存在する和歌山医療圏に集中する傾向がみられた。

### 【回答者の属性】

今回の調査に回答していただいた女性医師 290 名の年齢の内訳は、40 歳代が 82 名 (28.3%) と最も多く、次いで 30 歳代が 74 名 (25.5%)、50 歳代 68 名 (23.4%)、20 歳代 36 名 (12.4%) と続いた。病院勤務医 192 名 (66.2%)、診療所 (勤務もしくは開業) 87 名 (30.0%) である。

また、既婚者 185 名の配偶者の職業は 132 名が (71.4%) が医師であった。子供のいる人は 171 名 (59.0%) であった。子どもの年齢は 0 歳児 9 名 (3.9%) 未就学児 63 名 (27.3%) 小学生 60 名 (45.0%) 中学生以上 99 名 (42.8%) であった。未就学児では、託児保育、病児保育、小学生以上では学童保育や学校関連に問題があるようである。

### 【女性医師の勤務実態】

勤務形態としては、常勤勤務医 165 名 (56.9%) 開業・開設者 63 名 (21.7%) 非常勤勤務医 44 名 (15.2%) 他であった。平成 23 年度の調査では、宿直等をすべてこなす常勤と日勤のみの常勤あわせて 198 名 (87.1%) で非常勤が 16 名 (7.4%) であり、非常勤勤務医の増加が顕著となっている。

勤務時間としては、40～49 時間/週が 58 名 (33.0%)、次いで 50～59 時間/週が 43 名 (24.4%)、また 60 時間以上/週の方が 35 名 (19.9%)、0～19 時間/週の方が 5 名 (2.8%) であった。

平成 23 年度の調査に比し、40 時間～60 時間以上/週の勤務の方の増加が認められた。

当直の頻度に関しては、回答のあった 176 名のうち、なしが 75 名 (42.6%) 2~4 回/月が 76 名 (43.2%)、5~7 回/月 (5.7%)、1 回/月が 9 名 (5.1%)、8 回以上/月が 6 名 (3.4%) であった。平成 23 年度調査と比しほぼ同様の頻度であった。

オンコール (待機) は 48 名 (27.5%) の者が 2~7 回/月もしていた。ひと月に 11 回以上オンコールある医師も 17 名 (9.7%) いた。平成 23 年度調査と比し、オンコール回数の増加が認められた。すべての医師の状況とも考えられる。

#### 【学会活動等について】

学会活動への参加に関しては回答のあった 176 名のうち時々参加が 96 名 (54.5%)、ほとんど参加しないが 43 名 (24.4%)、よく参加するは 29 名 (16.5%)、全く参加しないが 8 名 (4.5%) であり学会活動への参加する為の時間が取りにくい状況が推察される。

#### 【勤務形態の変更について】

勤務形態を変更した経験は回答のあった 45 名のうち 13 名 (29%) は出産を機に、4 名 (9%) は健康上の問題、3 名 (6.7%) は結婚を機に、という答えであった。その他 (不明) が 22 名と最も多かった。その 45 名のうち、将来の常勤医師としての勤務希望に関し、16 名 (36%) は可能であれば働きたい、6 名 (13%) はいずれは働く、13 名 (29%) は働くつもりはないとの回答であった。49%の方が復職希望を持っていることが判明した。その常勤復職へのハードルとしては、育児が出色に多く (45%)、次いで家庭、職場の理解(各 21%)と続いた。また宿直・日直などの夜勤勤務は回答者の 63.6%が希望しないとのことであった。

#### 【出産・育児中の働き方】

育児による勤務形態に関し回答者 262 名中 形態を変える、変えたいが 119 名 (45.4%)、特に変わらないが 46 名 (17.6%)、休職するが 28 名 (10.7%)、退職する、したが 23 名 (8.8%) と育児により勤務形態が少なからず影響されている。家事・育児への協力者に関しては、回答者 284 名中、両親が 124 名 (43.7%) と最も多く、次いで夫・パートナーが 101 名 (35.6%) で多かった。いない方も 18 名 (6.3%) と判明した。

### 【職場環境について】

職場環境について子育てに協力的か？については、回答のあった 242 名中 106 名（43.8%）は“はい”であったが、“判らない”が 33 名（13.6%）であった。出産休職（産前産後）はとれるか？については、回答のあった 240 名中 105 名（43.8%）が有給でとれる、とれるが無給は 48 名（20.0%）とれないが 13 名（5.4%）であり、“判らない”が 59 名（24.6%）であった。長期の育児休暇については、回答のあった 241 名中有給でとれるが 42 名（17.4%）、とれるが無給が 56 名（23.2%）、とれないが 45 名（18.7%）判らないが 83 名（34.4%）であった。

短時間勤務制度に関しては回答のあった 239 名中難なく利用できるが 44 名（18.4%）、利用しにくい利用できるが 58 名（24.3%）、利用できないが 11 名（4.6%）、制度自体がないが 37 名（15.5%）、判らないが 74 名（31.0%）であった。

いずれの設問に関しても判らないという回答者が想定以上に多く、勤務環境の制度について相談したり質問したり確認したりしやすい体制が必要であると考えられる。

## 【まとめ】

和歌山県で働く女性医師 290 名の勤務実態、出産・育児中の働き方などのアンケート調査の結果である。

平成 23 年 7 月時点でのアンケートに比し、全体的には比較的似た結果であったと考えられる。今回の勤務地及び居住地に関する調査では、圧倒的に和歌山医療圏に集中しており、その偏在が顕著であった。

前回同様、出産・育児を機に勤務形態を変える（変えた）頻度は 262 名中 202 名（77.1%）にも及び、前回のアンケート時以上に高率となっている。

女性医師が仕事を継続できるか否かの鍵としては、保育・病児保育・学童保育のサポート、時間外を埋めるファミリーサポートのような制度、柔軟な勤務体制（例えば、短時間勤務制度やフレックスタイム制度、代替医師制度など）また復職を支援する体制、そして職場の同僚や上司などの意識、配偶者等との家庭内業務の分担、そして本人自身のモチベーションの維持などが主として考えられる。職場環境の悪さから一線を退いてしまうのは、社会の大きな損失である。女性医師の働きやすい環境をつくる継続した支援が必要だろう。そのような支援や制度に関して、周知できる体制も必要であろう。各種相談窓口を身近に、かつ活用しやすい制度にする工夫も必要と考える。

また、医学生等の早期よりのワークライフバランス教育により、各自のキャリアデザインを考えたり、プロフェッショナリズムを自覚できる教育も重要と考えられる。そして今後は、出産・育児・復職の相談、支援のみならず、女性医師、男性医師共に介護に関する支援、またそれらに対応する柔軟な勤務体制の構築等も重要な問題である。これらの実現により、女性、男性を問わず良質な QOL へと結びつき、真の男女共同参画社会へと熟成することを願っている。

# 集 計 結 果

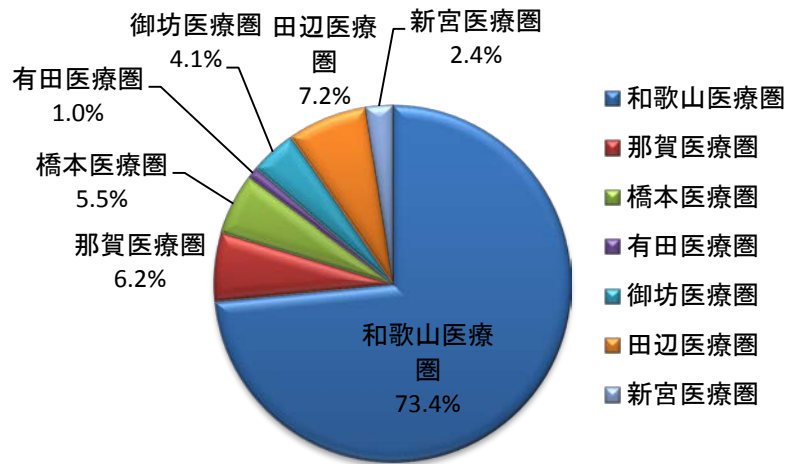


# 和歌山県で勤務する女性医師へのアンケート調査

## あなたについて

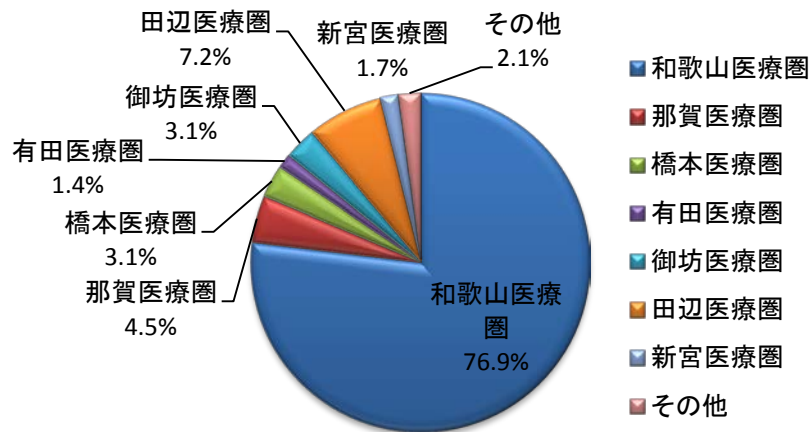
Q1 勤務地はどこですか。

①和歌山医療圏	213	73.4%
②那賀医療圏	18	6.2%
③橋本医療圏	16	5.5%
④有田医療圏	3	1.0%
⑤御坊医療圏	12	4.1%
⑥田辺医療圏	21	7.2%
⑦新宮医療圏	7	2.4%
計	290	100.0%



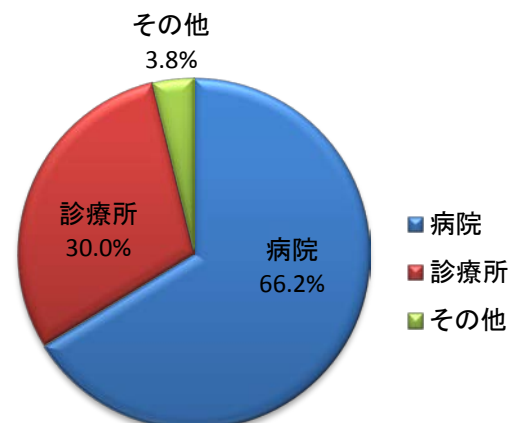
Q2 主たる居住地はどこですか。

①和歌山医療圏	223	76.9%
②那賀医療圏	13	4.5%
③橋本医療圏	9	3.1%
④有田医療圏	4	1.4%
⑤御坊医療圏	9	3.1%
⑥田辺医療圏	21	7.2%
⑦新宮医療圏	5	1.7%
⑧その他	6	2.1%
計	290	100.0%



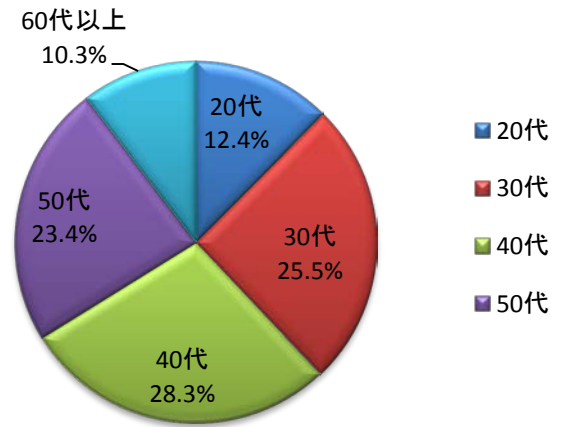
Q3 勤務場所はどこですか。

①病院	192	66.2%
②診療所	87	30.0%
③その他	11	3.8%
計	290	100.0%



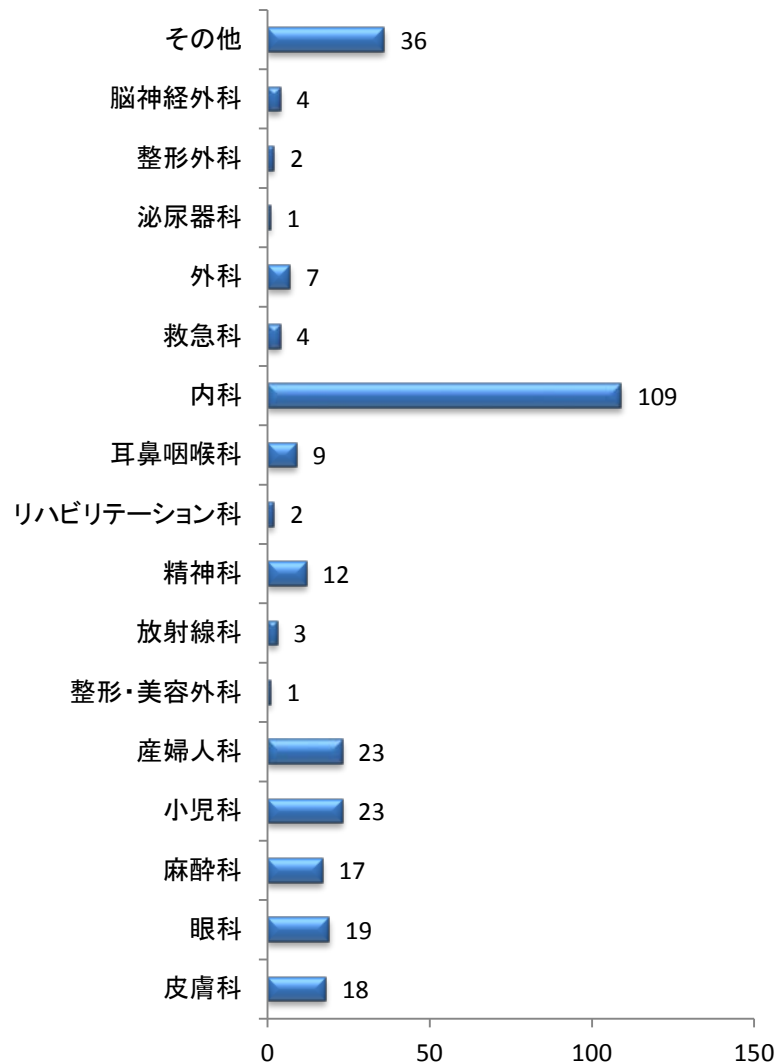
Q4 年齢を教えてください。

① 20代	36	12.4%
② 30代	74	25.5%
③ 40代	82	28.3%
④ 50代	68	23.4%
⑤ 60代以上	30	10.3%
計	290	100.0%



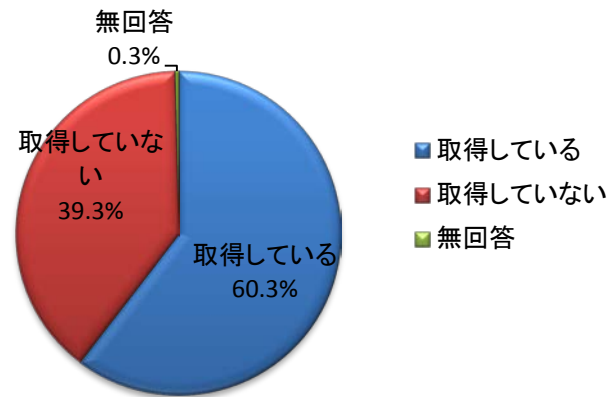
Q5 主たる専門科はどれですか。

① 皮膚科	18
② 眼科	19
③ 麻酔科	17
④ 小児科	23
⑤ 産婦人科	23
⑥ 整形・美容外科	1
⑦ 放射線科	3
⑧ 精神科	12
⑨ リハビリテーション科	2
⑩ 耳鼻咽喉科	9
⑪ 内科	109
⑫ 救急科	4
⑬ 外科	7
⑭ 泌尿器科	1
⑮ 整形外科	2
⑯ 脳神経外科	4
⑰ その他	36
計	290



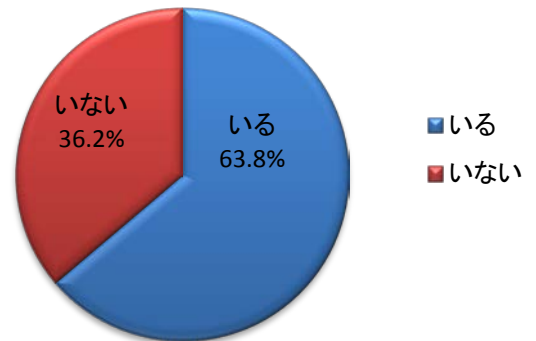
Q6 専門医資格は取得していますか。

① 取得している	175	60.3%
② 取得していない	114	39.3%
③ 無回答	1	0.3%
計	290	100.0%



Q7 配偶者はいますか。

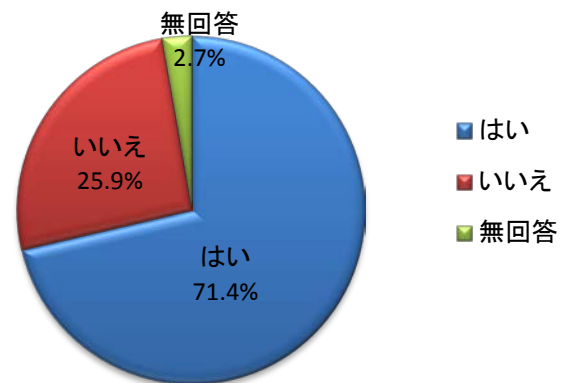
① いる	185	63.8%
② いない	105	36.2%
計	290	100.0%



◇ Q7で①と回答された方に伺います。

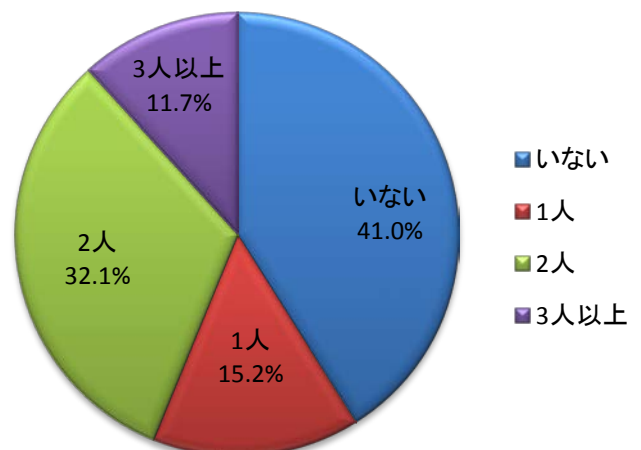
Q8 配偶者の職業は医師ですか。

① はい	132	71.4%
② いいえ	48	25.9%
③ 無回答	5	2.7%
計	185	100.0%



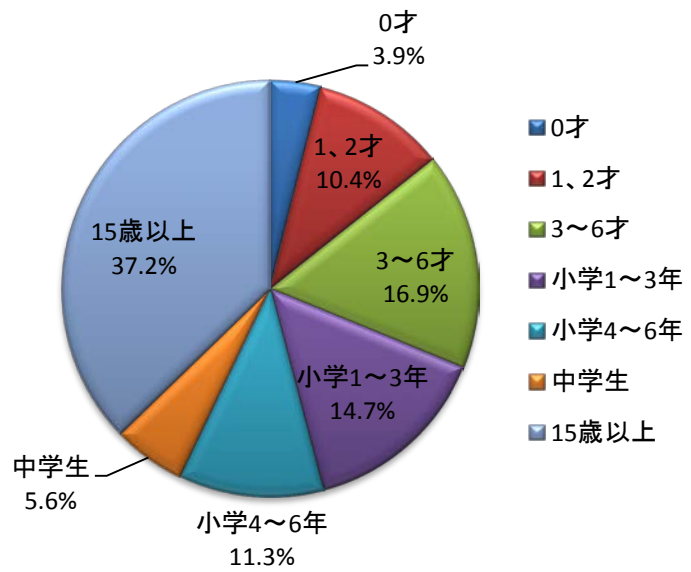
Q9 お子さんはいますか。

① いない	119	41.0%
② 1人	44	15.2%
③ 2人	93	32.1%
④ 3人以上	34	11.7%
計	290	100.0%



Q10 お子さんの年齢を教えてください。(複数回答)

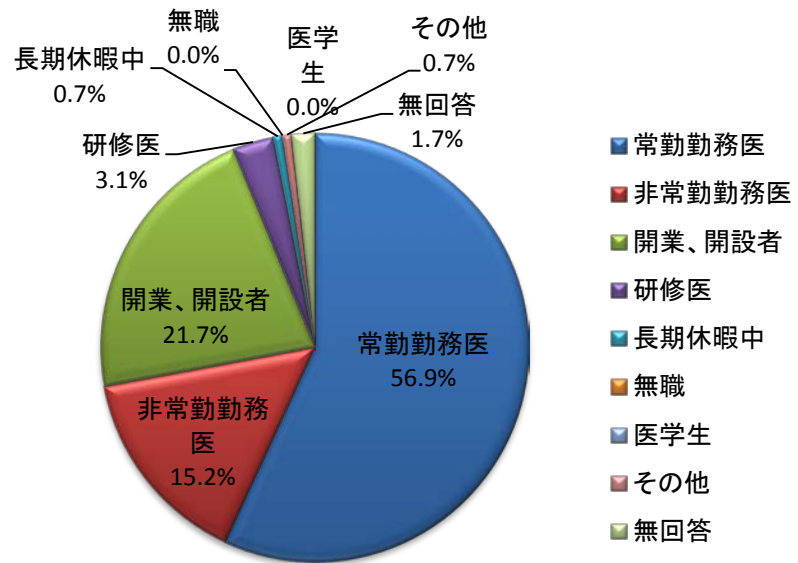
① 0才	9	3.9%
② 1、2才	24	10.4%
③ 3～6才	39	16.9%
④ 小学1～3年	34	14.7%
⑤ 小学4～6年	26	11.3%
⑥ 中学生	13	5.6%
⑦ 15歳以上	86	37.2%
計	231	100.0%



## 勤務形態について

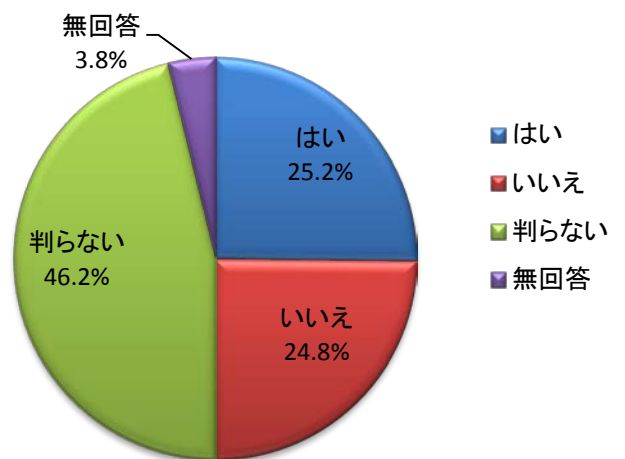
Q11 現在の勤務形態を教えてください。

① 常勤勤務医	165	56.9%
② 非常勤勤務医	44	15.2%
③ 開業、開設者	63	21.7%
④ 研修医	9	3.1%
⑤ 長期休暇中	2	0.7%
⑥ 無職	0	0.0%
⑦ 医学生	0	0.0%
⑧ その他	2	0.7%
⑨ 無回答	5	1.7%
計	290	100.0%



Q12 各病院や医師会等に「相談窓口」が設置されたとしたら、利用したいと思いますか？

① はい	73	25.2%
② いいえ	72	24.8%
③ 判らない	134	46.2%
④ 無回答	11	3.8%
計	290	100.0%

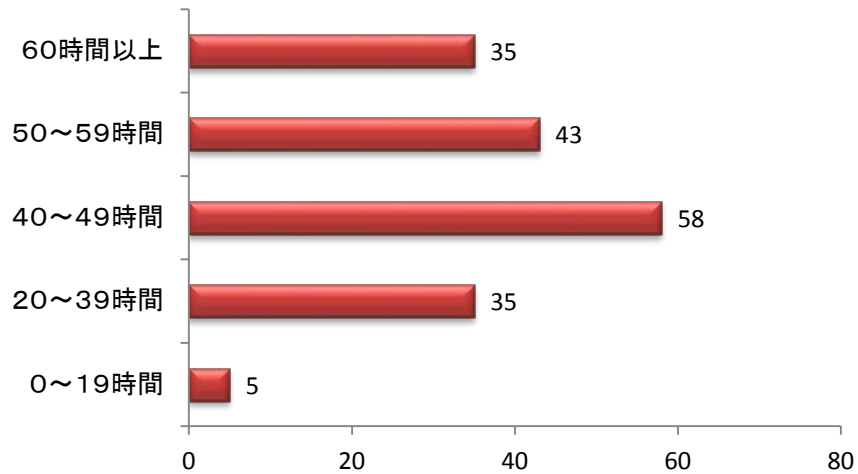


☆常勤勤務医及び研修医の方に質問です。

※和医大の場合は学内助教も含む。

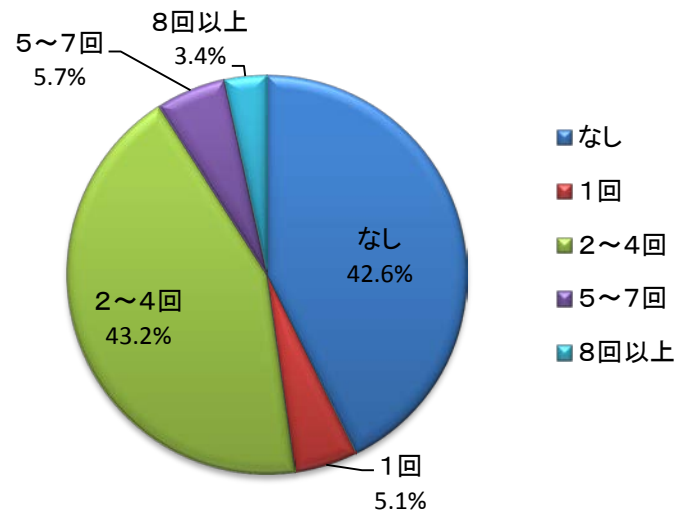
Q13 1週間の勤務時間は何時間ですか

① 0～19時間	5	2.8%
② 20～39時間	35	19.9%
③ 40～49時間	58	33.0%
④ 50～59時間	43	24.4%
⑤ 60時間以上	35	19.9%
計	176	100.0%



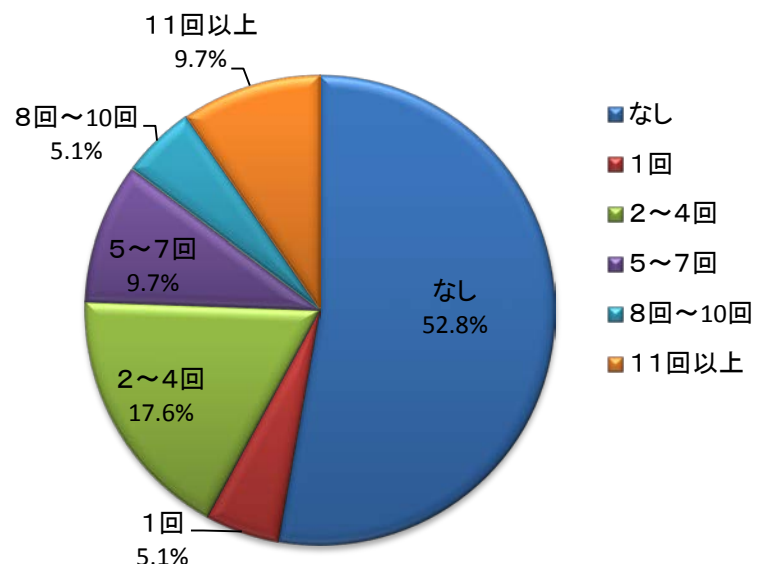
Q14 1ヵ月における当直の頻度はどの程度ですか。

① なし	75	42.6%
② 1回	9	5.1%
③ 2～4回	76	43.2%
④ 5～7回	10	5.7%
⑤ 8回以上	6	3.4%
計	176	100.0%



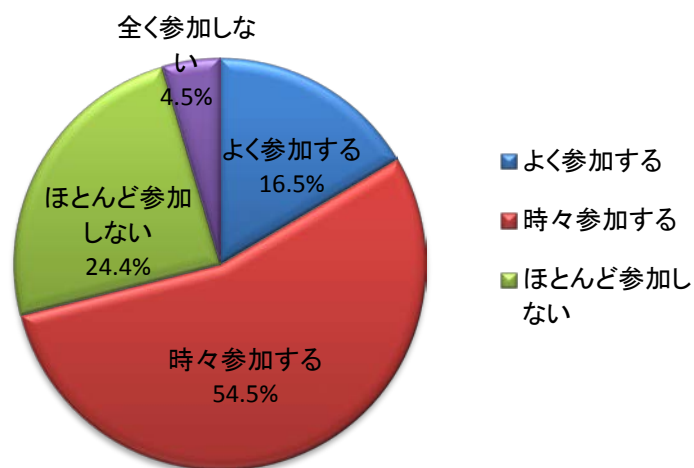
Q15 1ヵ月における待機はおよそ何回ですか。

① なし	93	52.8%
② 1回	9	5.1%
③ 2～4回	31	17.6%
④ 5～7回	17	9.7%
⑤ 8～10回	9	5.1%
⑥ 11回以上	17	9.7%
計	176	100.0%



Q16 学会活動へはどの程度参加されていますか。

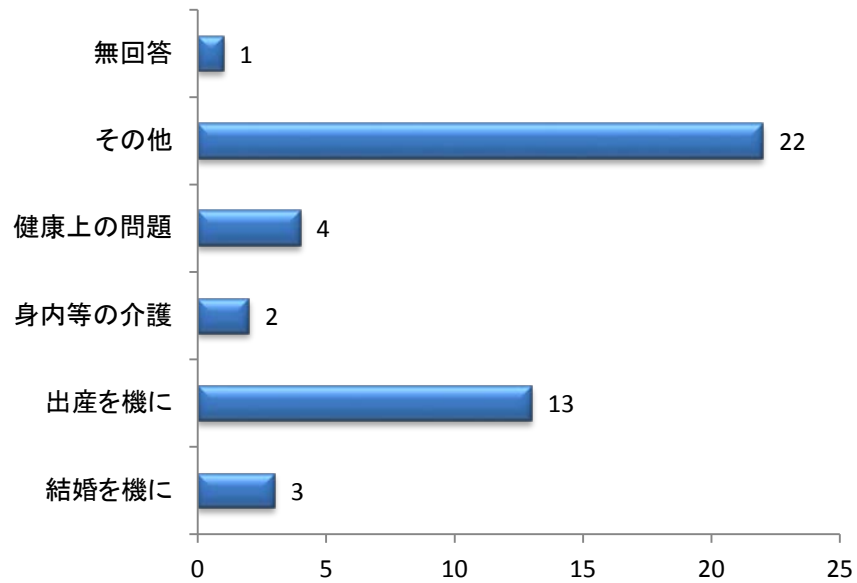
① よく参加する	29	16.5%
② 時々参加する	96	54.5%
③ ほとんど参加しない	43	24.4%
④ 全く参加しない	8	4.5%
計	176	100.0%



☆非常勤勤務医の方に質問です。

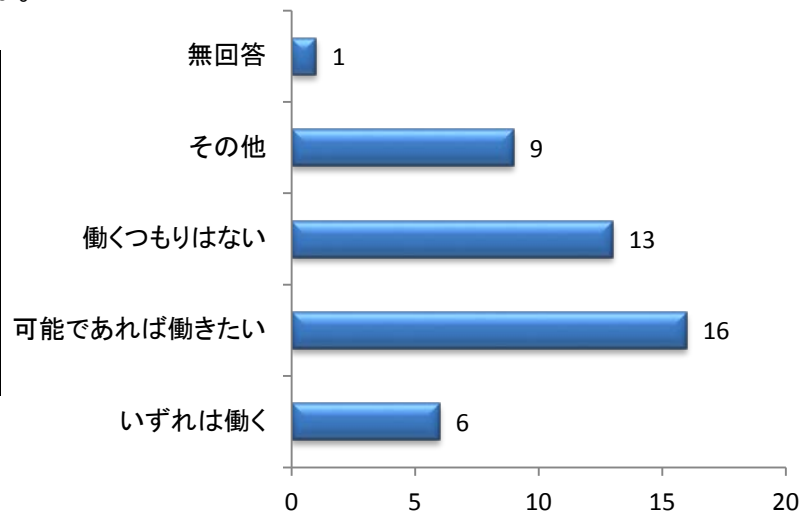
Q17 現在の勤務形態を選択した理由は何ですか。

① 結婚を機に	3	6.7%
② 出産を機に	13	28.9%
③ 身内等の介護	2	4.4%
④ 健康上の問題	4	8.9%
⑤ その他	22	48.9%
⑥ 無回答	1	2.2%
計	45	100.0%



Q18 将来常勤医として勤務したいですか。

① いずれは働く	6	13.3%
② 可能であれば働きたい	16	35.6%
③ 働くつもりはない	13	28.9%
④ その他	9	20.0%
⑤ 無回答	1	2.2%
計	45	100.0%

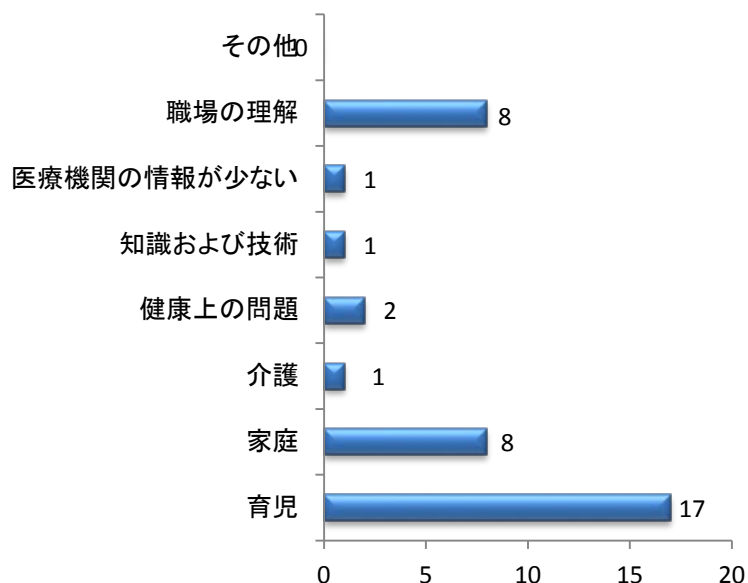




◇ Q18で①または②と回答された方に伺います。

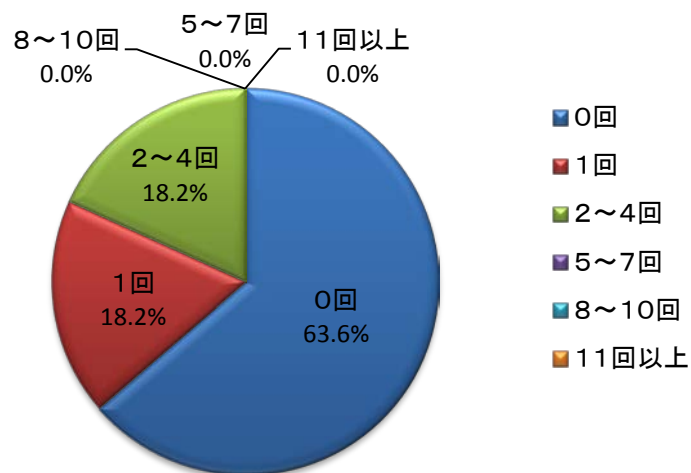
Q19 常勤勤務復帰への問題は何ですか。(複数回答)

① 育児	17	44.7%
② 家庭	8	21.1%
③ 介護	1	2.6%
④ 健康上の問題	2	5.3%
⑤ 知識および技術	1	2.6%
⑥ 医療機関の情報が少ない	1	2.6%
⑦ 職場の方の理解	8	21.1%
⑧ その他	0	0.0%
計	38	100.0%



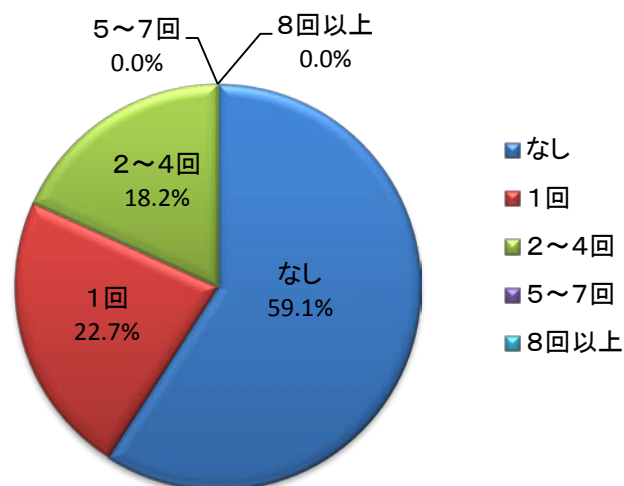
Q20 宿直・日直などの夜間勤務は月に何回までなら可能であると思いますか。

① 0回	14	63.6%
② 1回	4	18.2%
③ 2~4回	4	18.2%
④ 5~7回	0	0.0%
⑤ 8~10回	0	0.0%
⑥ 11回以上	0	0.0%
計	22	100.0%



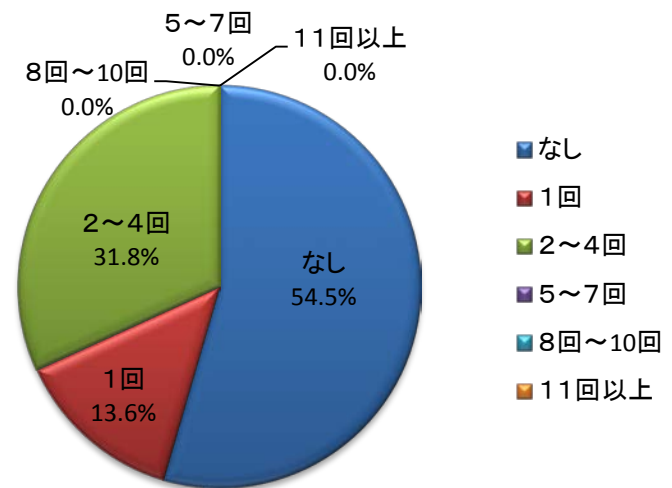
Q21 1月における当直の頻度はどの程度なら可能であると思いますか。

① なし	13	59.1%
② 1回	5	22.7%
③ 2~4回	4	18.2%
④ 5~7回	0	0.0%
⑤ 8回以上	0	0.0%
計	22	100.0%



Q22 1月におけるオンコールはおよそ何回なら可能であると思いますか。

① なし	12	54.5%
② 1回	3	13.6%
③ 2~4回	7	31.8%
④ 5~7回	0	0.0%
⑤ 8回~10回	0	0.0%
⑥ 11回以上	0	0.0%
計	22	100.0%



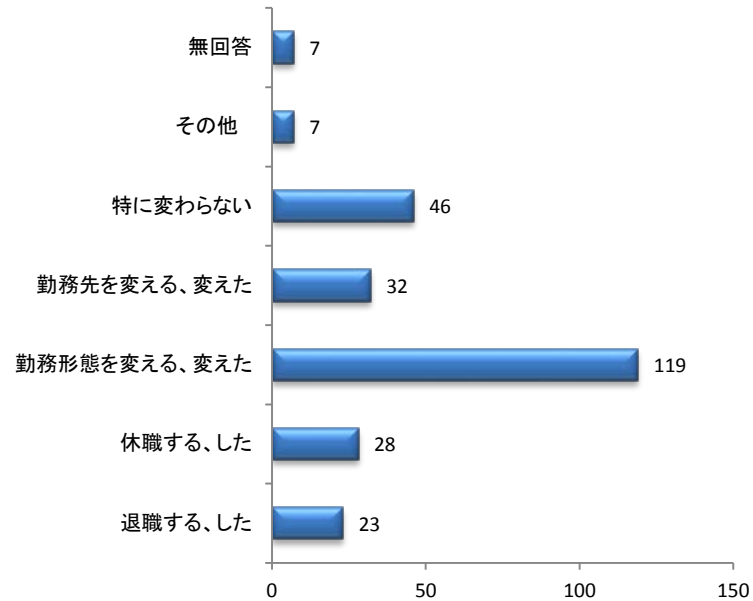
☆出産・育児について質問です。

※お子様がいない方もお答えできるところだけご回答ください。

Q23 育児により、勤務形態をどのように変えましたか、変えたいと思いますか。(複数回答)

(n-231)

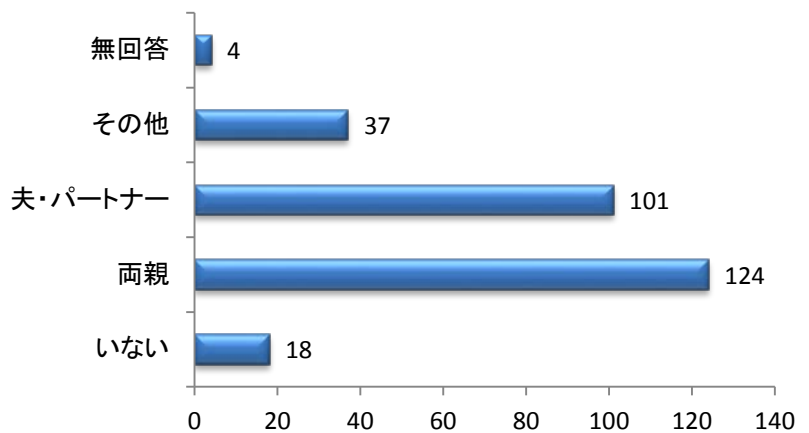
① 退職する、した	23	8.8%
② 休職する、した	28	10.7%
③ 勤務形態を変える、変えた	119	45.4%
④ 勤務先を変える、変えた	32	12.2%
⑤ 特に変わらない	46	17.6%
⑥ その他	7	2.7%
⑦ 無回答	7	2.7%
計	262	100.0%



Q24 家事、育児に協力してくれる人はいますか。(複数回答)

(n-222)

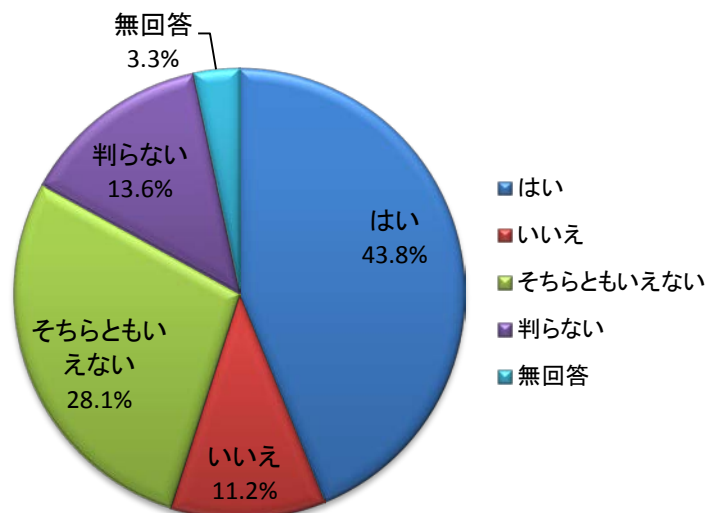
① いない	18	6.3%
② 両親	124	43.7%
③ 夫・パートナー	101	35.6%
④ その他	37	13.0%
無回答	4	1.4%
計	284	100.0%



Q25 職場環境は子育てに協力的ですか。

(n-222)

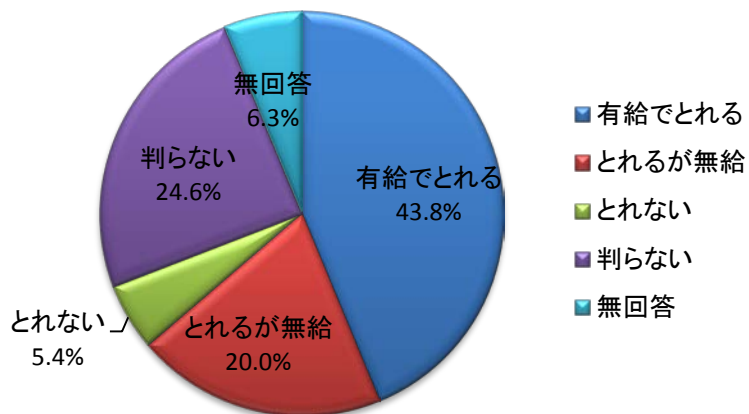
① はい	106	43.8%
② いいえ	27	11.2%
③ どちらともいえない	68	28.1%
④ 判らない	33	13.6%
⑤ 無回答	8	3.3%
計	242	100.0%



Q26 勤務先で出産休暇（産前・産後）はとれますか。

(n-240)

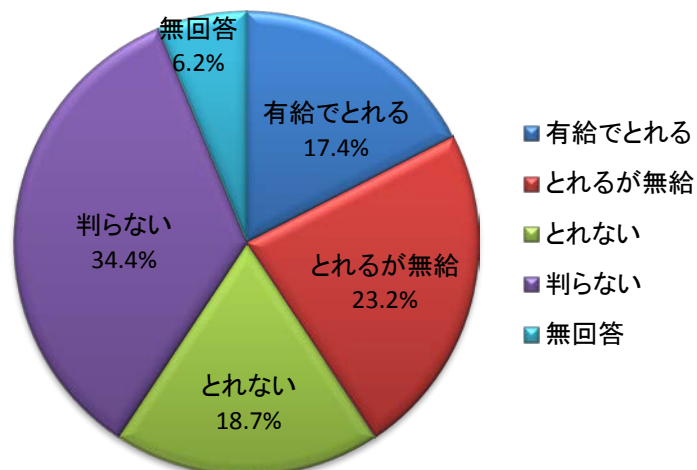
① 有給でとれる	105	43.8%
② とれるが無給	48	20.0%
③ とれない	13	5.4%
④ 判らない	59	24.6%
⑤ 無回答	15	6.3%
計	240	100.0%



Q27 勤務先で長期の育児休暇がとれますか。

(n-241)

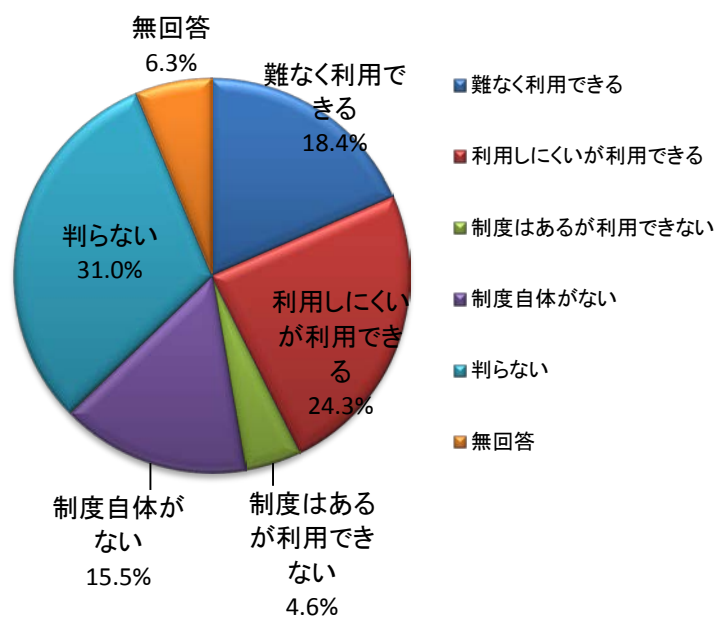
① 有給でとれる	42	17.4%
② とれるが無給	56	23.2%
③ とれない	45	18.7%
④ 判らない	83	34.4%
⑤ 無回答	15	6.2%
計	241	100.0%



Q28 短時間勤務制度は利用できますか。

(n-239)

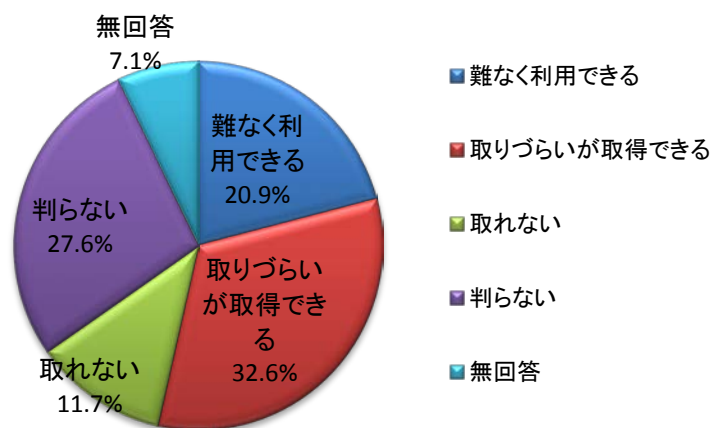
① 難なく利用できる	44	18.4%
② 利用しにくい利用できる	58	24.3%
③ 制度はあるが利用できない	11	4.6%
④ 制度自体がない	37	15.5%
⑤ 判らない	74	31.0%
⑥ 無回答	15	6.3%
計	239	100.0%



Q29 出産・育児休暇について取得しやすいですか。

(n-239)

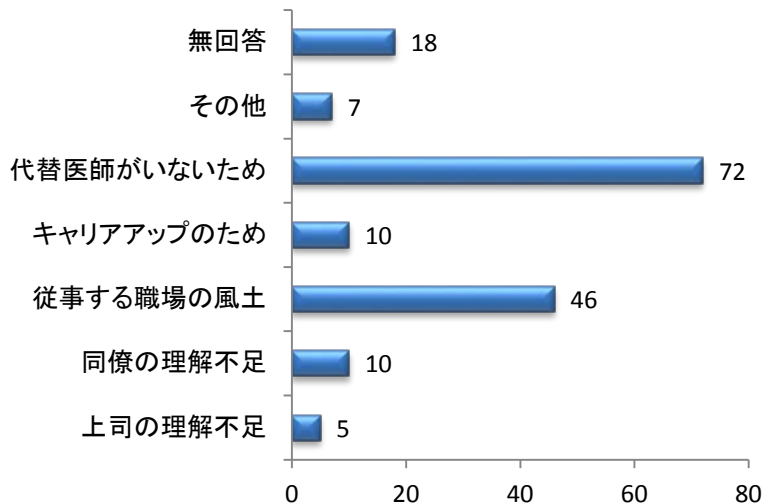
① 難なく取得できる	50	20.9%
② とりづらいが取得できる	78	32.6%
③ とれない	28	11.7%
④ 判らない	66	27.6%
⑤ 無回答	17	7.1%
計	239	100.0%



◇Q28またはQ29で②または③と回答された方に伺います。

Q30 その理由は何ですか。(複数回答)

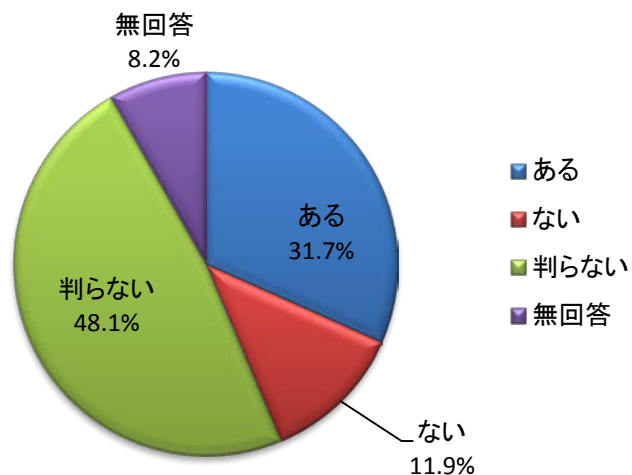
① 上司の理解不足	5	3.0%
② 同僚の理解不足	10	6.0%
③ 従事する職場の風土	46	27.4%
④ キャリアアップのため	10	6.0%
⑤ 代替医師がないため	72	42.9%
⑥ その他	7	4.2%
⑦ 無回答	18	10.7%
計	168	100.0%



Q31 育児休暇後の身分の保証はありますか。

(n-243)

① ある	77	31.7%
② ない	29	11.9%
③ 判らない	117	48.1%
⑤ 無回答	20	8.2%
計	243	100.0%

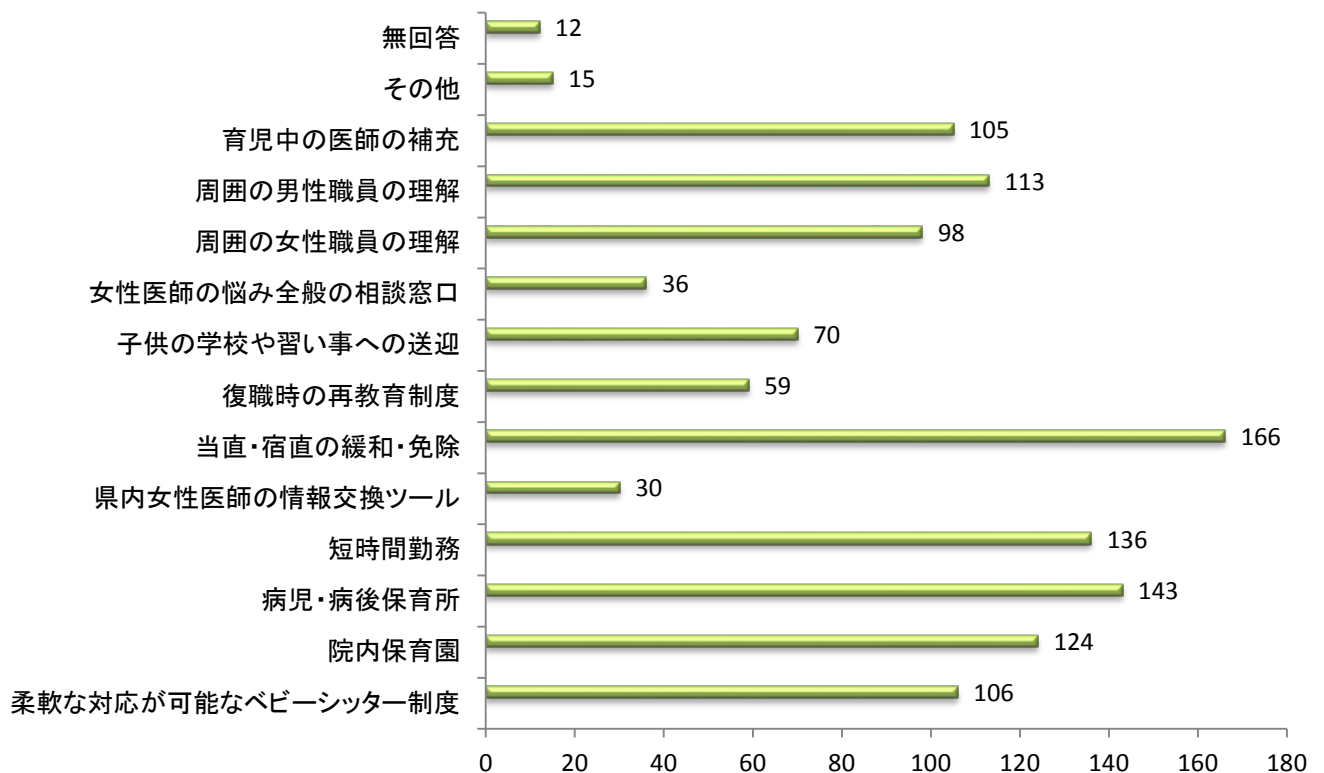


Q32 今後働き続ける（復帰する）ために必要と思われるものは何ですか。

（複数回答）

（n＝251）

① 柔軟な対応が可能なベビーシッター制度	106	8.7%
② 院内保育園	124	10.2%
③ 病児・病後保育所	143	11.8%
④ 短時間勤務	136	11.2%
⑤ 県内女性医師の情報交換ツール	30	2.5%
⑥ 当直・宿直の緩和・免除	166	13.7%
⑦ 復職時の再教育制度	59	4.9%
⑧ 子供の学校や習い事への送迎	70	5.8%
⑨ 女性医師の悩み全般の相談窓口	36	3.0%
⑩ 周囲の女性職員の理解	98	8.1%
⑪ 周囲の男性職員の理解	113	9.3%
⑫ 育児中の医師の補充	105	8.7%
⑬ その他	15	1.2%
⑭ 無回答	12	1.0%
計	1213	100.0%



## 平成 27 年度 3 月 和歌山県内女性医師アンケート

アンケート意見よりの抜粋（自由意見につき集約されております）

○人手不足＋理解のある職場ですので難なく復職できますが、子供が小学校に上がった時の方が保育園時代よりも離職してしまうのではないのでしょうか。院内保育所に学童が併設されていたらなあと思うことはしばしばありましたが、子供が小学校高学年になってしまったら、今度は女性職員の理解かなとハードよりソフトが気になる今日この頃です。

○夫の勤務形態のため、夫が育児に参加することはほぼゼロに近く不可能です。実家も近くありません。自分のキャリアアップや、職場の人手不足を考えれば、もっと当直回数を増やしたり仕事にあてる時間を多くとるべきとも思いますが、幼い子が実の両親がいながら一緒にいられる時間も少なく他人の手で育てられる事が本当に良いことなのか悩んでいます。

○身の回りに同じ年代で結婚、出産して働いている女医がいないので分かりません。

○どの職種でも同じですが、妊娠・出産・育児に際して時短、休職などにより同僚への負担が大きくなります。負担を負わされる同僚の気持ちもすごくわかるので、妊娠後のことを想像すると本当に心苦しく思います。女性の医学生が増え、これからどんどん男性医師への負担が大きくなると思うと申し訳ないと思いますが、かといって出産しないのも社会のためにもならないし・・・答えが出ません。日々迷います。

○子供を持った女性が、子育てをしていない男性あるいは独身の女性と同じ条件で働くこと自体、無理があると思います。他の人と普通に働いて当たり前なんて思わないでほしい。体は1つしかないし、時間も1日24時間しかないので。働く女性は自分のために使う時間はほとんどないんです。

○基本的には、自分の専門の科の医師が十分に余裕をもって診療している体制の中でしか、女性医師（特に小さな子供を持つ医師）の受け入れは難しいと思います。まわりの医師にも余裕がないためです。（代理をひきうけてもらえるように）医師不足の解消が必要です。そのうえでQ32のすべてが必要です。

○私自身は様々な勤務形態を体験しながら医師を続けてきました。周囲の理解がなく困難な場面も多く体験してきましたが、一部の女性医師は理解が乏しかったと思います。

○アンケートの質問形態がおかしい。

結局、結婚していない女性医師に負担が増す。その為休みもとれないし、結婚しづらい。また、育児休暇をとる女性医師をみていると、当然(通常業務に)復帰できないなど確信するため先が見えない。

○女性医師の育休、働き方への権利への意識改革も必要。

○男性医師のセクハラに対する教育を徹底してほしい。意識が低すぎると思います。

○子供の人格形成について幼少時の環境因子が大きな役割を占めていることは、いつの時代でも明言されていることです。金銭的な理由はともかく、キャリアアップのため、自身の興味のため最低限の休暇しかとらず働く、しかしその休暇を埋めるだけの人員も余っておらず残されたスタッフはギリギリのところフォローする。休みを取る側もまわりの目を気にする。家庭においては配偶者の協力もなしではすまされずここにもひずみが生じる。別に「お母さんが働かなくてもいいんじゃないですか？子供のそばにいてあげてくださいよ。」と思う医師です。

○育児中勤務の最大の不安点は急病である。病児保育は必要と思われる。

○ベビーシッターのような制度を確立して頂きたい。子供のためにやむを得ず働けない女医が多すぎる。

○出産や育児へは徐々に取り組みられています但し介護が女性というだけで女性医師に負担としてのしかかってくることも多い。この点が抜け落ちていることが多いので申し述べておきます。40代～50代の女性医師にとってかなりの問題となると思います。

○アンケートをとるばかりでなく、何かACTIONをお願いします。

○あらかじめ予定できるものについては対応できますが、警報発令時などに臨機応変に休みをとる等の対応が現実的には難しい状況が多いと思います。(実家から離れて暮らす女医さんも多数いるので・・・)

○病児保育施設が増えると助かるお母様方がたくさんいらっしゃると思います。

○平均10時間、ベビーシッターにお願いすることになるので、1日1万以上となるとほぼお給料がないに等しくつらい。院内保育園の充実を希望します。



○働き方の多様化に対応できる制度が必要だと思います。制度を使用しやすくなればいいと思います。周りの理解も必要だと思います。

○若い女医さんを支援したいです。

○自分が子供をもってやっと知る環境があります。環境改善を言えないのが現状です。悩み出すと辞めるしかありません。

○出産・育児だけでなく、介護に対しても対策が必要です。

○男性医師も働きやすい職場にならないといけないのでは。長時間労働を改善するのが先かもしれません。

○制度はあっても職場の雰囲気、人数が少なく業務が多忙であることを考えると使用しにくい。働き方を緩和してもらおうと、どうしてもそのしわよせが他のスタッフにいくため、不満のもととなる。申し訳なく思う。マンパワーが絶対的に不足、女性医師は産休・育休である程度働けない期間がおとずれること前提で余裕をもった人事を考えてほしい。またママさん女医は実家(義実家)のサポートが受けられるかどうかで働けるキャパシティが違う。子育てしていても当直OKの人がいれば絶対無理な人もいる。一律で考えず個々に応じた対応を希望します。

○すぐに働ける病院に変えるか、又、そういう職場に配転する。

○働く意思や意欲のある女性はたくさんいると思いますが出産、育児の両立がかなり難しいと思います。出産休暇もつわり時期などの時間短縮勤務や休暇制度などあればより安心できると思います。妊娠中のオンコールなども規定がなくそれぞれの病院や科によって様々なのもきっちり決まりがあればと思います。

○上司の理解がある・ないで大きく左右されると思います。

○女性医師は出産、育児の際、時間が自由になる開業を選ぶ。本人の色々な仕事のしわよせが他の医師に及ぶため働きづらいと思う。

○医師不足が解消されないと環境改善は難しい。

○\*更衣室が狭くなってきています。人数にあわせて拡充が必要(ハード面)  
\*複数主治医制の導入も必要  
\*女性医師自身も責任感をもち医師としてのキャリアを考えながら、仕事を続けることが必要

○\*ある程度の収入を得るためには当直や外勤をせざるを得ない。  
\*学会参加のために子供を預けられる場所が欲しい。

○同じ女性でも出産したことのある人、結婚していない人 etc それぞれの立場、それぞれの家庭で様々だと思います。それぞれの言い分もあり、非常にむずかしい事が多いと感じます。

○女性だけでなく、男性医師も育児と介護に参加すべき。女性医師だけでなく、働きたい女性の壁は子育てに関しては「子供との時間」をもてないことと、若竹学級など、時間がかぎられた内での労働時間の担保のむずかしさではないかと思う。子供を思えば仕事が全力でなくなるのはあたりまえ。それを社会や上司、同僚が理解してほしいと思う。子育ては10年間、介護は??年間、いずれも支援を受けながら仕事を続け、キャリアアップできる世の中になってほしい。(難しいと思いますが・・・)

○、男性医師とまったく同じように働いているが、出産や育児関係で女性医師が休む場合などの負担が重く感じる場合がある。仕事で疲労するため、毎日家に帰っても何もする気力がなくなるので、もう少し楽になればありがたいと思っている。

○今でも(妊娠)出産となると、いったん退職する(せざるをえない)場合が大半だと思います。もっと、出産・育児休暇がとりやすい職場になってほしいです。

○病児保育所がすぐに満員になってしまい、朝から子供が熱を出しても預けられない事が何度かありました。病児保育の拡充を強く希望します。

○病児保育でも38℃の発熱や予期せぬ症状悪化では預けられないし、預けるまでのハードル(病院へ行き書類作成、電話予約など)が高く毎月何度も病児へ預けると心が折れそうになることもありました。今、大変恵まれた環境&スタッフの下で働かせて頂いているが負担がその他の先生にかかっていると思うと辛いです。フォローし合える様にもっと医師が補充されてほしい。また、自分に出来る事を出来る時に一生懸命行いたいと思います。妊娠中から和歌山のベビーシッター情報を詳しく知っておくべきだったと思う。(数は少なく事前の面談も必要。)一覧表とか皆で相談できる場があればいいのにと思いました。

○時短わくがやっとできましたが利用しにくく利用する人は少ないと思います。

○子供が小さい時の病児保育の充実とともに、小学生の子供に対する学童保育の充実も必要だと思う。

○「病児保育をしてくれる院内保育園」は大変ありがたい。できれば、3才まででなく、就学年令までカバーしてほしい（特に病児に関して）

○丁度良く働くには非常勤がよくなってしまふ。患者さんの急変、ムンテラ、死亡などにより予定外に出勤、かかりつけがいる為、体力がもたない。あるいは、同居の家族の迷惑になる。常勤で優遇されるとしたら、ただでさえ大変な職場である為、男性医師に悪いと思う。男性も女性も代わりのきく職場体制であったり、時間できっちり区切れる職場体制がありがたいと思うが、実際は困難である。

○育児期間中などフルタイムで勤務しづらい期間は一般病院の外来業務や健診業務等、負担の少ないところを女性医師がしてもよいのかなとも考えます。（病棟管理や当直は無理という期間）

○御苦労様です。これからの女性医師が後悔のないよう仕事ができますように心から願っています。

○一人主治医制の廃止（夜中に呼び出され、そのまま朝になり子供が目覚めた時、家に誰もいないということがよくあった）。家庭は家族全員で守るという思想を学校教育の中で教え込む。

○専門医の資格がパート勤務では長年続けてもとれない。何年間か開業しているだけで専門医資格を与えられていた。その制度を残してもらうか、平等にして欲しい。

○第1子出産時は育児休暇の制度がなかったため（看護婦さんにはありましたが）退職しました。男女を問わず病気などで休業しなければならない場合もあり、そのような時の支援システムもあれば良いと思います。

○質問には答えにくいものばかりで・・・すみません。

○1人で開業しているため、判らないと答えたQが多いですが、スタッフについては、前向きに考える予定です。

○現在は、介護に足をとられながら、開業生活をしています。現在も好きに休めるわけがなく、せめて、学会や研究会の参加が機会だけでももっと得られたらうれしいのですが。

○出産・育児などの一定期間、医師の補充をしていただける従来の医局機能が必要不可欠と思います。

○女性医師にも単身の場合、配偶者のみ居る場合、子供（人数も異なる）、バックアップしてくれる身内の存在の有無等、ケースバイケースと思う。勤務を続ける為には、現在の育児・病児支援環境、柔軟な勤務体制、本人のモチベーション、周囲の理解と現在の施策を押し進めていくよりないと思います。

○40～50年前とはあまりに環境が変化しているので何もお答えできません。

○私が若い頃は配置転換の自由はあったが、パワーハラスメント、セクハラは今よりずっと厳しく、仕事は一度は中断した経験がある。若い女性医師は昔よりは恵まれている面もあるのだからもう少し頑張ってもらいたいと思う。最後に講習会、研修会が盛んに催されているが、終了時刻をもっと守ってほしいと思います。会が終わってから仕事が残っている女性医師ももっと参加しやすいように！

○保育所が確保できて、17:00頃に帰宅できて、当直がなければまあまあ仕事は続けていけると思います。でも、保育所を卒業すると小学校で低学年のうちは早く帰ってくるので、この時期が実は一番大変でした。春、夏、冬休みもあり、困りました。設備、制度も大切ですが、職場の人たちの理解が一番大切だと思います。

○開業出来たのは両親の支援があったためと思っています。若い世代は都会に出て行き田舎特に山間部での開業は人口的な分で無理かと思われれます。現在は老人しか住んでいませんので大変です。

○なんとか周りが頑張ってくれましたが、出産後は勤務病院がかわりました。そこでは当直免除していただきましたが子供の病気時は両親をたよりました。(家事はほとんどたよってました。)とにかく補充人員がない！というのが問題なんです、どこにも医師はいず…あとは病児保育ですね。

○学会の専門医制度に関しては女性医師のライフスタイルに関して、あまりにもハードルが高く、結婚、出産等に考慮した資格要件を各学会に働きかけていただけたらと思います。

○（勤務医）他県では当直中の子供との環境確保のため、待機の個室とシッターさんがいると聞きました。あまり休んでばかりだと医師の質がおちるので、周囲の理解を求めるばかりでなく、女性のモチベーションをあげられて環境作りと本人の意欲が大事だと思います。

○「子供がいる」ということを盾にしてあまえている女医さんが多いように思う。独身女医、男性医師にしわ寄せがいくのはおかしいと思う。

○ベビーシッターは基本的に利用する意志はありません。他人にまかせるつもりはありません。子供に教育をつける為、塾や習い事へも送迎は必須であり、それもまた他人様に任せれるものでもないと思います。将来的にはバリバリ仕事したいと思っています。

○女性医師が仕事を継続するためには、医師全体が働き方を考えなければいけないと思います。育児休暇、短時間勤務をとることによって、他の医師の負担が多くなりすぎると不満がたまります。お互い様と思えるような（男性医師も育児休暇をとれるとか）制度があれば良いと思います。

○女性の働き方というのはむしろ看護師さん達の方が数が多いのでどのようにしているのか知りたいです。

○出産後すぐから利用しているNPO法人のファミリーサポートセンターがとてもありがたいです。

○県外で働く者も活躍できる機会を与えるべき。男性医師優位な考えが今だにはびこっている。男性医師の考えを改善する取り組みも要する。

○妊娠、出産、子育て以外にも次の世代の問題として、介護の問題もあると思います。子育てについては、よやく産休、育休、時短などとれる環境になってきていると感じますが、介護の面はまだまだ広まっていないのが現状です。産休はしかたないなあという理解ですが、介護はそれすらない・・・と思います。そちらの方も充足していただければ・・・。